

修練

2013年度
スローガン

社団法人にいがた北青年会議所



実践躬行

～北区の明日（未来）に今できる事～
歴史と伝統・誇りを胸に

2013年度 4月号

3月例会

2013年度
一般社団法人にいがた北青年会議所
3月例会



2013年3月11日、旅館割烹しかいにて3月例会が開催されました。ただ、今回の事業は、他団体とのスケジュールが合わず、残念ながら遂行することが出来ませんでした。

3団体との想いを繋げられず左の写真にて、小柳委員長の無念さが滲み出ている事が感じられます。

これからの小柳委員長が成長に期待します。



理事長挨拶は、重々しい雰囲気の中が始まりましたが、理事長の叱咤激励が小柳委員長を含め役員や理事メンバーに送られ、現役メンバーの結束をさらに強める機会となりました。



3分間スピーチは、2回目の早川君。

今回は話のネタが豊富でインフルネタでメンバーを湧かしていました。



松浜の勇の奥次郎の石山君。初めてのスピーチでしたが、見事にこなし、しっかり自社のアピールをしていました。

バッジ授与

同時にバッジ授与が行われました。

渡邊建築の渡邊和也君が新入会員として新しく仲間入り致しました。

一緒に北区を盛り上げていきましょう



ブロックゴルフPRに行ってきました！(´▽`)/

今年度、ブロックゴルフ大会を主管させて頂く事となりました。その為、各エリアのブロ長訪問にゴルフ大会のPRをさせて頂きました。

各エリアにて、にいがた北らしさを出し素晴らしい出来となりました。

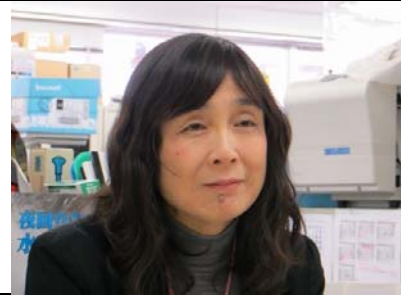
実行委員会のメンバーの皆さんお疲れ様でした。特に早川君に至っては、横峯さくらに扮して21LOMの皆さんに熱き思いを届けました。

参加頂いたメンバーの皆様、有難うございました。



理事長対談2013

2013年度の理事長対談は地域で活動をしている団体の代表者からお話をお伺いすることにより、青年会議所として地域のために何が出来るのか、地域のニーズを探る企画です。第2回の対談者は、



北区社会福祉協議会
事務局長 小倉美弥子 様



2013年度社団法人にいがた北青年会議所
小林直人 理事長



理事長 早速ですが、私たちメンバの中にはわかる人間もいるんですが、何をされているかわからないメンバーもいますので、社会福祉協議会とはなにか、教えていただけますか。

小倉氏 社会福祉協議会は法律でも決められているんですが、地域福祉を推薦するためにできている団体です。そのため、民間の非営利団体になっていて、行政の政策の中で出来ないことをしています。介護事業所も北区の場合はケアマネ、デイサービス、ヘルパー、そして、奥に地域包括支援センターと事業所が入っていて、介護と連携して地域の方を支えていきたいと思います。ただ、介護は介護だけするのではなく、他の介護事業所のお手本になるようなサービス事業所になろうと活動しています。あとやっぱり、問題を抱えている人には民間の事業所は行かないんですね。実際、収益を追求する方だとそういう形で、大変な方は社協さんで、とか、結構そういうことが多いかなと思っています。地域福祉を推進するということは難しいことなんですけど、地域の方が生まれてから亡くなるまで、安心してこの北区に住み続けられるという事を前提に、それではいろんな事業をやっているというのが社会福祉協議です。

小倉氏 それこそ、個々それぞれ地域によって課題も違います。例えば1人相談があったら、持ち帰り、ほかの地域にも似た相談があれば事業があると思います。なければ新たに作る事になると思います。そこで、青年会議所さんやいろんな団体との関わりがありますので、話を聞くうちに、あそこの団体と連携を取りましょうとか、そういう風にして繋いでいく所なんです。

小倉氏 財源としてはいつも8月に社会福祉協議の会費ということで500円各世帯にお願いしているのと、あと、10月の「赤い羽根共同募金」、12月の「歳末」、これが、財源になっています、あとは寄付金とか頂いているのでその中で活動しています。

理事長 ありがとうございます、それでは、にいがた北青年会議所とはどのようなところかご存知ですか？

小倉氏 もちろん知っています。とてもきちっとしている感じですね。そして、ネットワークが広いというイメージです。

理事長 前回の対談で金城氏に言われたのは、我々のような団体が顔の見える街づくりをして下さいと、言われました。それは近年、高齢者が引きこもりになってしまうことが多いそうなんです。他県では年配の人が元気で外に出られるという取り組みをしている所があると聞きました。しかし、北区では年配になると引きこもってしまい、顔の見えない人が出来てしまうというのが現実、という話を聞きました。やっぱり一番大事なのは顔が見える街づくりだということなんです。そこで私たちが目指す、明るい豊かな社会を作ろう、という所が社会福祉協議会と似ているのかなと思っています。何か社会福祉協議会から私たちに、こういう事業して欲しいという要望がありますでしょうか。

小倉氏 はい、私が入って16年目位になるんですけど、その中で青年会議所さんとの関わりって言うと、身体障がい者のスポーツ大会「ニュースポーツ」で一緒になったのが最初でした。その時すごいなと思ったのが、会の始まりに鐘を鳴らすことなどに、びっくりもしました。それから、震災があった年には、翌日には被災地に行っているのを聞いていて、また、すごいなと思いました。2年前の3月11日の体育館避難所開設の時も非常にお世話になりました。青年会議所さんにはいろんな業種の方がいるので、ネットワークもすごいと思いました。そういう所でまた連携して何かできないかなと思っています。



理事長 私達、新潟県に22ある青年会議所が、会議をした際に、新潟社会福祉協議会の方が来られて災害ネットワーク協定のお願いに来られて話をしました。そのあと県のブロック会長が各22の青年会議所で社会福祉協議会と連携が取れていないところがあればすぐにでも連携の強化を図って下さいという話をしました。そういう中でこの対談が出来たのは正直タイミングがいいなと思いました。

理事長 私達も、日本青年会議所というところがありまして心の準備というものを聞かされております。JCエイドという、簡単に言うと災害グッズというものがあって、そこからもしもの時に、私たちメンバーが4万人日本全国にいるんですけども、JCエイドというものを持つことで2人までが2日間生活できるもの、例えば乾パンであったり、大きさも必要な物なんでも揃っているの、それをメンバー全員が持つことで何かあった時には自分たちの分も家族の分も対応できますし、5年間という賞味期限はありますが、よそで災害があった時にはメンバーのJCエイドを一箇所に集め早急に対応しようという取り組みがあります。そのため、ことが起きる以前から私たちは心の準備をしておきましょうというお達しが来ています。震災からまる2年経ち、去年は、特にチャリティーバザーと一緒に3月やらしていただきました。私達被災地域というよりも近県なので、忘れてしまっはいけないと思うので、これをどうやって繋げていくか、何か私たちのすべきことを考えなければいけないと思います。

小倉氏 本当に震災が起きた時にはすごい助かりました。足りないものがあればすぐに連絡を取ってくれたり、避難所の時には助かりました。

理事長 私たちは単年度制をとってます。今は私が理事長やらしてもらってますが、来年になると違いますし、その中で街づくりというものの観点がとても強くて、色々なお祭りごと、キタミテキタクでもそうですが、青年会議所は地域の問題点課題点というよりは街づくりをして事業をしているという認識を持っている方が多いと思います。広い意味で、私たち現役青年世代に何かしてもらいたいことがあればお聞かせください。

小倉氏 はい、私達、新潟社会福祉協議会の事業という高齢者を相手にしているイメージがあると思うんですが、子供達や障がい者のケアにも力を入れていますので、逆に青年会議所の人たちって若い方が多いので、いま子育てしている人たちが、どういうものが課題で、どういうものが必要かというところの声をまとめてもらえるようなものをしてもらいたいなと思います。

小倉氏 もう一つうちの事業に今、重点を置いているのは、今話題の孤立死です。何か持病を持っていて倒れて2~3日して見つかるという事は仕方の無い事だと思っておりますが、亡くなっても1年とか経っている人もいて、要するにご近所づきあいが今はあまりないんですね。なのでご近所との関係を大事にしまいいけないなと思ってるのもあり、市の方は協定を結びました。まず、新聞屋さん、牛乳屋さん、ガス屋さん、電気屋さん、ヤクルトとかです。何をしてもらおうかという1ヶ月に1回でいいから、何か異変があったら連絡をしてください、という事をしていんです。青年会議所さんも色々な業種の方がいらっしゃると思いますので、個人でも何かおかしいなと思った時に、連絡をいただければと思います。

小倉氏 今の話からあと、連携の中で、配食サービスをしているんですが、葛塚ではお弁当を月2回ボランティアさんが作って、民生委員とボランティアさんが配って安否確認も含めてしているのですが、クローバーさんが500円で配達をしているのでいいのですが、土日が休みなんですよ、そういう中で、連携もできないかなというのもあるんですね。

理事長 その話を聞いて、食品の部分であったり、そのほかでも私は協力したいと思っています。要請を受ければ協議の議題に上げて協議をしてどういう風に協力していくか考えたいと思います。

小倉氏 まだまだ社会福祉協議会では本当に色々なことをしていますので興味を持って知っていただきたいと思えます。お願いすることが沢山あると思えます。

理事長 お互いに知名度はあっても何をしているのか一般の人には伝わりにくい所がありますね。

小倉氏 そうなんです、していることに対して社会福祉協議の「社」の字も出ない事が多いですね、お互いにPRも頑張りましょう。

理事長 私達、特にボランティア団体なので、求めてはいけない部分ではあるんですが、時に認めてもらえればスムーズに進む事業があるのかなとも思います。

豊栄祭りのあとのゴミ拾いも周知されてきて、市の方からも助成をしますよと言われましたが、「私たちは好きでこの街を綺麗にしているんです」と断らせていただきました。

小倉氏 かついいですね。あと、企業向けにボランティア講座というのもしているんです。ちょっとした車椅子の押し方であったり、介護の仕方、例えば障害の方からお話をしていただくとかも出来ます。実際に学校の方でもしています。なんでも声をかけていただければと思います。

理事長 そうですね、私達もそういうことを知らないもので、そういう講師も頼めるよと言うんであれば、みんなで話それをやるよという事になれば、お願いいたします。本日はありがとうございました。



小倉氏が提言する「社会福祉協議会の重点活動」

- 社会福祉協議会と他団体の得意分野を活かした連携
- 孤立死のない街づくり
- 社会福祉協議会の活動内容周知
(高齢者だけを相手にしているイメージがあるが子供達や障がい者のケアにも力を入れている)